

【10-3-8】 主要科目の特長（国際文化学部国際協力学科）

国際協力学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

(2) 専門科目

① 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化協力」「国際文化支援」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。国際共通語としての英語のスキルを高めるため、1・2年次必修科目の「英語演習 1～6」を設置し、《NGU 教養スタンダード科目》＜国際コミュニケーションスキル＞科目と有機的に連動した外国語教育体系を構築しています。これらは国際文化を学修するための基本的なスキルであり、同時に2年次必修科目の「国際関係論」および「国際協力論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化協力・国際文化支援を推進させるための学習体系となっています。

この他、選択科目として以下の7科目を1・2年次に配当しています。

「国際文化支援論」「国際地理論」「開発社会学」「文化交流論」「国際社会学」
「マイノリティ論」「ジェンダー論」

② 国際文化協力展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《国際文化協力展開科目》および《国際文化支援展開科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。それは個別の「地域」への文化協力・支援もしくは国際協力方法論としてそれぞれの学生の学習課題となり、学年進行に伴い専門的課題研究へと結実していきます。

《国際文化協力展開科目》は、国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学ぶ。2・3年次の選択科目として以下の11科目を配置しています。

「国際移民論」「日中関係論」「アジア政治論」「国際機構論」「平和学」「農村発展論」
「アジア経済論」「国際企業論」「文化変容論」「アジア地域研究1」「アジア地域研究2」

③ 国際文化支援展開科目

《学科基幹科目》の学修と並行して《国際文化協力展開科目》および《国際文化支援展開科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。それは個別の「地域」への文化協力・支援もしくは国際協力方法論としてそれぞれの学生の学習課題となり、学年進行に伴い専門的課題研究へと結実していきます。

《国際文化支援展開科目》の科目区分では、特に開発途上国の支援を念頭に据え、開

発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学びます。2・3年次の選択科目として以下の9科目を配置しています。

「文化マネジメント論」「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション論」
「多文化教育論」「世界遺産と保全」「国際環境文化論」「国際人権論」「比較地域生活史」
「企業文化論」

④ 国際文化関連科目

国際文化学科開設科目を中心に《国際文化関連科目》として選択20科目を設置し、本学科の教育目標である国際文化協力・国際文化支援を支えるべき広範な国際文化の視野を習得することができます。

⑤ 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディーツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長期留学（1年間）や中期留学（およそ6か月）に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。また短期留学やスタディーツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情1～4」として認定されます。

(3) 演習科目

《演習科目》は1年次から卒業まで必修として配当されています（1年次においては《NGU 教養スタンダード科目》の枠組みで設置）。2年次に配当される「国際協力基礎演習1・2」では国際理解・交流の基礎を学び、3・4年次に配置されている「国際協力演習」では担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。また、「国際協力実践論1・2」において国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションを学び、海外で実施される短期研修での体験と有機的に結合させるようにプログラム化されています。

◎専門科目の一部をピックアップ

国際協力論

世界のさまざまな格差や貧困問題、宗教対立などを理解し、国際協力の意義を学びます。グローバル時代の課題と自分との関わりや、国家や国際機関の課題が明らかとなります。また、市民の文化交差や企業の社会的責任など、身近な活動としての国際協力への理解も深めます。

NPO・NGO論

国家や企業の利益に縛られずに国際問題の解決に取り組むNPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)について紹介します。実際に名古屋で活動するNPO・NGOスタッフの方をゲストスピーカーとして募り、お話を伺う機会も設けています。

ジェンダー論

「男性は仕事、女性は家業」「男性は強く、女性は優しく」といった性による既存の役割分業について、改めて考察します。専業主婦や家事・育児・介護、産後医療などさまざまな社会現象をジェンダーの視点から解説し、性に関する概念を問い直す力を養います。